

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成19年 9 月 13 日
事業所名	グループホーム円頓寺東館
事業所番号	2370401230
記入者名	職名 管理者 氏名 山本太起
連絡先電話番号	052-561-5466

(様式1)

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	<p>縁日への出店を単発的なものに留めず、継続的に利用者が無理せず参加出来るよう手助けをしていく</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	<p>職員間で常に理念について意識が出来る様にミーティング等の場で話し合う機会を作る</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	<p>家族便り、ホームページの作成等を今現在計画している</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	<p>今後は近隣の方々」にホームに来て頂ける様に環境を整える</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>職員が研修等の場に出かける事はあるが、その研修で得た知識を地域の方々へ還元するまでには至っていない</p>	○	<p>運営者・管理者が主となり、運営推進会議等の場で事業所の成果を報告したり、認知症への理解を深めて頂く努力をする</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービスの評価の意義や目的をミーティングの場で職員全員に伝えているが、職員全員での自己評価の作成は出来ていない</p>	○	<p>職員全員がサービス評価に対し理解出来る様に評価の結果をミーティング・日々の申し送りの中で省みる機会を作っていく</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では報告だけでなく、参加メンバーからの意見を聞き入れ、実践に向けて日々話し合っている。参加メンバーが固定されており、地域の方々になかなか参加して頂けていない</p>	○	<p>地域の方々が運営推進会議の存在すら知らなかった事もあり、参加して頂けなかった。今現在は事前に書面での説明等で周知して頂ける努力をしている最中である</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>今現在出来ていない</p>	○	<p>区役所に出向き、サービスの質の向上に協力して頂ける様に話し合いをしていきたい</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、権利擁護事業を利用している利用者がみえ、今後対応が必要な利用者には支援していきたい。職員にも説明を行っている</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティングの場で高齢者虐待防止法に関して話し合い周知徹底を図っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事業所のケアに関する考え方・取り組み・退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。利用者・家族の不安に耳を傾け、誠実に対応している</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見を職員が1対1でゆっくり聞く努力をしている。そこで出された意見をミーティングで話し合い、日々のケアに活かしている。利用者本人にミーティングに参加して頂く事もある</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族便り等の発行はしていないが、心身の状況については訪問時や電話等で逐一報告をしている。金銭管理については出納帳のコピー・伝票を毎月家族に郵送させて頂いている</p>	○ 定期的な家族便りにて利用者の状況をお知らせする努力をしていく
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会というものがなく、家族の意見・要望が聞ける場が運営推進会議のみである。積極的に意見を取り入れる姿勢や努力が必要である</p>	○ 今後は家族会の実施、家族への報告・連絡・相談の徹底を図っていきたい
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング・必要に応じて個人面談を行っているが、不満・苦情等を把握していない可能性もある</p>	○ 職員一人ひとりと密に話し合う場を定期的に設け、職場の質の向上につなげる
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の自由を守る事が出来る勤務体制を定期的に話し合い、見直す場を設けている。人手不足のため、柔軟な体制が取れるようなシフトが組めていない</p>	○ 利用者の活動の幅が広がるような余裕のある人員を確保する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットの職員を固定し、馴染みの職員によるケアを心がけている。異動・離職する際にも事前に利用者へ説明し、利用者のダメージを軽減する努力をしている</p>	○	<p>職員の異動の際に業務の引継ぎが十分でなく、業務に支障があったため 引継ぎの期間を十分に取 り、スムーズに移行出来る様配慮する</p>
<b>5.人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に一度近隣のホームと共同で勉強会を行っている。研修等にも参加しているが、参加しなかった職員に対し、研修報告が徹底されているとは言えない</p>	○	<p>研修報告書の作成を職員全員に浸透させていきたい</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>名古屋市認知症高齢者グループホーム協議会に加入しており、事業所同士の意見交換の場を設けている。月に1回西区のグループホームの勉強会・意見交換を通して他事業所の方の意見を取り入れている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に職員の意見、不満などを聞き取る時間を作っている。他のグループホームとの交流の機会はあるのだが、参加して頂きたい職員に参加して頂けない というのが実状である</p>	○	<p>他のグループホームとの交流会に参加する事の意義を十分理解してもらい、シフト等で調整しながら快く参加出来る環境を作る</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の日頃の努力に理解を示して頂いていると共に、時には客観的に見て、的確に意見を述べて頂けるので職員は前向きに仕事に向かう事が出来ている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談で利用者の生活状態を把握するように努めると共にご本人の求めている事や不安を理解しようとしている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>今までの経緯をしっかりと聞き、次の相談につなげている。話しを聞く事により安心して頂けるよう努力している</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者本人と家族が今何を望んでいるかを親身になって聞く事と共に可能な限り柔軟な対応を行っている</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>やむを得ず直ぐに入居となった場合にはご家族やそれまでに関わった方にホームに来て頂き、安心感を持って頂く。今までの生活習慣をなるべく変える事なく過ごして頂く</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は常に利用者と共に生活しているという事を心がけて接しており、利用者から教えて頂くという事が計らずとも成立している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思いを大切にし、そのためにどのような支援が必要か、家族と連絡をとり相談をしている。ただその相談が頻繁でないため「利用者が日々どのような生活をしているか分からない」と意見を頂いた事もある	○	利用者の様子や思いを今以上に家族に伝達し、職員と家族の思いを一つにする努力が必要である
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や親しい友人宅への外泊を利用者・家族等が共に希望された場合、例えその日に決まった場合でも実現出来るように努力をしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	利用者の望む時に知人・友人に電話をして頂いたり、逆に電話をかけて来て下さる関係が保たれている	○	一部の利用者は全く外とのつながりが無いに等しいので、職員が仲を持ち、関係を継続する
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	特別仲を取り持つ事はしておらず、利用者が共同生活の中で喜怒哀楽を表現して頂ければと考えている。生活の中で助け合い、かばい合い、時にはけんかをするのは当然だという考えを持っている		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した利用者に関してはその後の相談や支援は出来ていない	○	現在 具体案は挙がっていないが関係を断ち切らない支援を築く努力をしていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃から利用者の意向を聞ける努力をしており、身体的、その他様々な問題はあるが、まずは「本人はどうされたいか？」に一番の重点を置いている</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者本人や家族の方からしっかりと話を聞き、これまでの暮らしの把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの出来ないことではなく、出来ることに着目しその人全体の把握に努めている。利用者の表情などにも日々注意し、心身状態の把握もしている</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者・家族には必ず説明し、その上で承認を得ており 思いや意見も反映させている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員は利用者の状態変化を記録し、本人の要望・状態の変化に応じて見直しを行っている</p>	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、 気づきや工夫を個別記録に記入し、 情報を共有しながら実践や介護計画 の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、必要な利用者は食事・ 水分量・排泄の状況を記録している。介護計画 の見直しに活かせる記録の書き方を徹底してい る。また、勤務開始前の記録の確認を義務付けて いる		日によっては個人記録がほぼ白紙といった日もあ り、記録を記入する時間を確保する必要がある
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要 望に応じて、事業所の多機能性を活 かした柔軟な支援をしている	今現在実施出来ていない	○	空き部屋を利用してショートステイとして活かした いたい
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民 生委員やボランティア、警察、消 防、文化・教育機関等と協力しなが ら支援している	以前はボランティアや教育機関からの実習生の受 け入れを行っていたが、現在はどちらの受け入れ も行っていない	○	実習生の受け入れが出来る環境を整えたうえで検 討していきたい
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地 域の他のケアマネジャーやサービス 事業者と話し合い、他のサービス を利用するための支援をしている	今現在行っていない	○	近隣のケアマネジャー・サービス事業所と連携 を図りたい
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権 利擁護や総合的かつ長期的なケアマ ネジメント等について、地域包括支 援センターと協働している	必要な利用者は権利擁護センターを利用している	○	同区内の地域包括支援センタ - の行っている取り 組みに積極的に参加していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と 事業所の関係を築きながら、適切な 医療を受けられるように支援してい る</p>	<p>本人やご家族が希望するかかりつけ医となってい る。また受診や通院は本人やご家族の希望に応じ て対応している。基本的には家族同行の受診と なっているが、不可能な時には職員が代行するよ うにしており、利用契約時にその旨を説明し、同 意を得ている</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関 係を築きながら、職員が相談した り、利用者が認知症に関する診断や 治療を受けられるよう支援している</p>	<p>今現在、近隣に認知症専門医がない</p>	○	<p>利用者の方々、ご家族に安心して頂けるように専 門医を早急に探したい</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるい は地域の看護職と気軽に相談しな がら、日常の健康管理や医療活用の支 援をしている</p>	<p>介護職員と看護職員との間に気軽に相談出来る関 係が築かれている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協 働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過 ごせるよう、また、できるだけ早期 に退院できるように、病院関係者 との情報交換や相談に努めている。あ るいは、そうした場合に備えて連携 している</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために医師と話を する機会を持ち、事業所内での対応可能な段階で なるべく早く退院出来るよう、アプローチしてい る</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共 有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方 について、できるだけ早い段階から 本人や家族等ならびにかかりつけ医 等と繰り返し話し合い、全員で方針 を共有している</p>	<p>かかりつけ医に相談し、本人の意思を尊重し、状 態の変化に応じて対応している</p>	○	<p>重度化してからでは遅いので、早期から話し合い を重ね、事業所と家族とのズレがないようにして いきたい</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームで の支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をよ り良く暮らせるために、事業所の 「できること・できないこと」を見 極め、かかりつけ医とともにチーム としての支援に取り組んでいる。あ るいは、今後の変化に備えて検討や 準備を行っている</p>	<p>本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い、 利用者が安心して終末期を過ごして頂けるように 取り組んでいる</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホーム 病院 他事業所となったケースがあったが、情報提供が十分ではなかった	○	今後他の事業所に移られる場合、アセスメント・ケアプラン等情報提供をしっかりと行っていきたい
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の話を他利用者の前でしてしまう事があった。ミーティング等で触れてはいるが、徹底は出来ていない	○	事業所全体でも徹底されていなかったので、再度ミーティングでプライバシーの保護の徹底を図りたい
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声かけを行っている。場合によっては個室にて話しを聞くようにしている。食事のメニューは利用者に決めて頂き、買い物に出掛ける	○	「何でも良い」と言われる利用者に対しその方が返答可能な方法を模索していきたい
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の中で決まっているのは3度の食事くらいで、その他の事は利用者がその日・その時したい事を職員が全力で実現に向け努力している	○	職員の一方向的な押し付けになっていないか、常に自問自答し、ミーティングでも話し合うようにしたい
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時のみ手伝うようにしている。毎日化粧をしている利用者もみえ、おしゃれ等も楽しんでいる 不定期ではあるがボランティアを依頼している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日その日で利用者と共にメニューを決めている。調理・盛り付け・片付けに至るまで利用者と共に行っている。朝・夕は職員と利用者が一緒にテーブルを囲んでいる		
55	本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の希望される時に提供できるよう支援している。また、お酒に関してもかかりつけ医と相談し、楽しめるよう支援している		
56	気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックはしているが、まだ完全にリズムを把握出来ておらず、支援が出来ているとは言えない	○	現在行っている排泄チェックを活かし、利用者の排泄パターンを把握し、気持ちの良い排泄を行って頂きたい
57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝～夕方まで余裕の持てる職員の配置をしている。拒否された方には無理強いせず、気に向いた時に入って頂く様にしている	○	夜間の入浴が現在の職員の配置では不可能であり、早急な職員の配置が必要である
58	安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中なるべく活動して頂くよう心がけ、夜間は気持ちよく休んで頂ける様にしている。寝付けない時は話しをしたり、お茶を飲んだりして安心して睡眠をとって頂いている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り・洗濯・花の水やりなど入居者それぞれに役割を持って頂いている。特定のスタッフに恋心を持ち、人生の張りになっている利用者もみえる	○	利用者の要望を聞き逃さず、良い表情を見せた事柄について職員間で共有し、支援につなげる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出す事で社会性の維持につなげており、少額を手元に持ってもらっている		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日外へ買い物へ出掛け、遠方のスーパーへドライブがてら出かける事も多い。商店街の中に建っているのでことある毎にでかけている		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎年恒例の温泉旅行に出掛け、普段とは違った環境を楽しんで頂いている。その他にも墓参りや、昔よく遊んだ場所に足を運んだりしている		
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話をいつでもかけて頂けるようにしている。	○	日々の生活の場面や外出時に写真を撮らせて頂き、その写真を送付させて頂く事により、今以上に事業所での生活を知って頂けるようにしていきたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族・友人などには訪問して頂いているが、落ち着いて頂けるスペースがなく長時間の滞在は無い	○	家具の配置を変えてゆっくり落ち着いて過ごして頂ける環境を整備する
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等の場で日々のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われてないかを確認している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、後ろから見守ったり、必要に応じて声を掛ける様にしている。 玄関の施錠は夜間のみになっている		玄関が開いたらセンサーが反応し、音が鳴るようになっている。 職員は常にその音を意識し、気をつけるようにしている
67	利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。 夜間は、数時間毎に利用者の様子を確認している	○	フロアが1階と2階に分かれているため、全体の状況を把握しにくいので夜間帯の待機場所を検討中である
68	注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	検討の結果、現在は一部の利用者の入れ歯洗浄剤のみホームで管理させて頂いている	○	危険物については予想だにしない物が危険物になり得るので、繰り返し検討していく必要がある
69	事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。 万が一の事故が発生してしまった場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の対策について検討している		
70	急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、周知徹底を図っている	○	看護師による指導を勉強会に取り入れる
71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけられている	避難経路の確認のため、年に一回程度行っている	○	地域の方々の協力は絶対であり、その協力が得られる様、運営推進会議で災害時の非難方法を決めておく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の自由な行動により、様々なリスクが発生するが、力の発揮やその人らしい生活がその方の表情を明るくしている事をご家族に説明し、理解を頂いている	○	その人らしさを優先し過ぎて、安全面の配慮を忘れない様心がける
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の利用者の状況を把握しており、変化が見られた時にはバイタルチェックをし、記録をつけている。状況によっては医療受診につなげている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の薬剤情報をファイルに閉じ、職員全員が把握出来る様にしている。飲み忘れのない様に配薬当番を決めている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は利用者の水分補給に気をつけている。便秘の方には、直ぐに服薬ではなく、まずは排便を促す食品を摂取して頂いている。また、排便のリズムを把握するために排便チェック表を活用している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの徹底はされていない	○	職員が口腔ケアの重要性を良く理解し、口腔ケアの声かけ・支援を徹底する
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリー計算はしていない。利用者の食べたい物を優先していたが、食事内容・バランス・カロリーの把握のために食事内容を写真に撮り、食の見直しを行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して、主治医に相談し、対処方法を学んでいる。その知識を職員共通の意識としている。対応マニュアルを設置している		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は毎晩漂白を徹底している。冷蔵庫の中身も定期的に点検し、鮮度や状態を確認し、処分・冷凍している。その日購入した物はなるべくその日に調理し、頂く様にしている		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設色が強くなるのを防ぐため、看板などは目立たない様にしている。緑やベンチを設置し、落ち着いた雰囲気を演出している。逆に看板が目立たないため、訪問される方々からは分かりにくい といった声もある	○	どのようにしたら場所が分かりやすくなるのか、目下検討中である
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレと居間の間には扉を一枚設けてあり、配慮をしている。利用者の馴染みの物が置かれているとは言えない。	○	共有空間には利用者の馴染みの物を配置するようにし、今以上に生活感を出す環境を整える
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の広さが少ないため、一人ひとりの居場所が食卓の椅子しか無い	○	居間の広さは一定であり、家具等も必要最低限の物しかなく、玄関先のベンチや喫茶店などに個々のくつろげる場所を求めている



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子以外にも利用者の好む物を好きな様に配置して頂いているが、一部殺風景な居室も見られる	○	利用者の家族の写真や馴染みの物などを居室に取り入れる
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室・居間・廊下の喚起は掃除の時、それ以外の時間に定期的に行っている。空調にかんしても、冷え過ぎず、暑くなり過ぎず気をつけている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「どうしたら本人の力でやって頂けるか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで洗濯物を干したり、野菜や花を栽培している		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者にどれだけわがままを言って頂けるか、そのわがままを職員がどれだけ汲み取れるかを追求しており、利用者の声を大切にしている。最近では地域住民の方々との交流に力を入れており、その効果が徐々にではあるが見えてきている所です。